

1.殺菌能力試験結果(専門機関)-1

試験依頼社名

報 告 書

一件名

次亜塩素酸 被検液 の殺菌力試験

表題の件に関して、ご報告申し上げます。

第No.10H142
平成22年6月10日

株式会社ファインテック

東京都新宿区新宿7-20-6
お問合せ先: TEL 03-3205-7008
担当者: 環境微生物研究室長 市川幸充
博士(工学) 福島由美子

1.殺菌能力試験結果(専門機関)-2

平成22年6月10日

報 告 書

— 件名 —

次亜塩素酸 被検液 の殺菌力試験

【試験概要】

次亜塩素酸 被検液 の殺菌効果を測定する。

【検査対象薬剤】

- ① 次亜塩素酸 被検液 50ppm pH6.4
- ② 次亜塩素酸 被検液 50ppm pH4
- ③ 滅菌精製水 (コントロール)

【検査対象菌】

一般細菌 (病院調理室の落下菌より分離)

【検査方法】

- 1 薬液作成 試験薬剤2mlを試験管に準備する。
- 2 菌液作成 検査対象菌を滅菌精製水で 10^6 cfu/mlになるように調整する。
- 3 接触 1の薬液に、2の菌液を100 μ l添加し、30秒間接触させる。
薬剤の不活化剤を添加した滅菌精製水で段階希釈を行う。
- 4 菌数測定 PDA培地を用い、上記検体の菌数を測定する。

1.殺菌能力試験結果(専門機関)-3

【検査結果】

試験菌	薬剤	菌数 (unit:cfu/ml)		
		開始時	30秒接触後	
一般細菌	PH6.4	2.0×10 ⁶	0	写真1
	PH4		0	写真2
	滅菌精製水		2.8×10 ⁶	写真3

写真1



写真2



写真3



【結果】

被検液 pH6.4(写真1)と

被検液 PH4.0(写真2)は

上記データと左写真を見ての通り
一般細菌がゼロ(0)になっております。

滅菌精製水(写真3)と比較すると、
一般細菌に対する殺菌能力の優劣が
目に見えてわかります。

今回は病院調理室の落下菌より
分離した一般細菌により調査しております。

3.計時変化測定

被検液

次亜塩素酸水（pH緩衝材生成）pH・濃度測定

報告日平成22年8月1日

測定日	500ppm 重曹無し			100ppm 重曹入り		100ppm 重曹なし		生成水保 管場所
	pH	濃度	備考	pH	濃度	pH	濃度	温度
3月22日	6.1	500想定	測定紙無し	5.9~6.1	100	6.0~6.3	100	12℃
27日	測定無			6.2	100強	6.5	100強	14℃
28日より、濃度試験紙、新しくなる。								
28日	測定無			6.2	75	6.5	75	13℃
29日	測定無			6.1~6.2	75	6.5~6.6	75	11℃
4月1日	6.5~6.7	600強	測定紙計測	6.0~6.1	75	6.3~6.5	75	18℃
13日より、pH計を校正し再度、計測を始める								
13日	6.9	ほぼ500	測定紙計測	6.2	50~75	6.7	75	15~18℃
19	6.8	500	測定紙計測	6.2	75	6.7	75	15~18℃
25	6.8	500	測定紙計測	6.3	75	7.0	75	"
5月5日	6.8	500	"	6.2	75	7.1	75	24℃
25日	6.6	500	"	6.2	75	7.1	75	25℃以内
31日	6.5	500	"	6.0	75	7.1	75	"
6月20日	6.2	500	"	6.0	75~50	7.1	75~50	25~30
7月7日	6.0	500	"	5.9	25~50	7.1	100付近	25~33
8月1日	5.5	500	"	5.5	25付近	7.1	100	30~35

●500ppm（重曹無）・100ppm（重曹入・無・2種類）各種類の生成日 3月22日

※ 7月7日より濃度試験紙、日産アグアチェックHC（600ppm）を使用する。
今まではブルーチップを使用する。